

平成 27 年 7 月 12 日 (日) 施行

第 179 回 全経簿記能力検定試験 1 級 工業簿記 解説

第 1 問

1. 原価計算基準 第一章 二 原価計算制度
2. 原価計算基準 第二章 一二 労務費計算 (一)
3. 原価計算基準 第二章 二三 組別総合原価計算

第 2 問

1. 先入先出法より、消費高は $450 \text{ 個} \times @ ¥1,630 + 1,950 \text{ 個} \times @ ¥1,640 = ¥3,931,500$

素 材

月初棚卸高	450 個 @ ¥1,630	消費高	450 個 @ ¥1,630
当月購入高	2,500 個 @ ¥1,640		1,950 個 @ ¥1,640

2. 社会保険料および所得税を控除した ¥2,584,000 が当座預金から支払われる。
3. $1,500 \text{ 個} \times @ ¥1,580 = ¥2,370,000$ を第 1 工程から第 2 工程へ振り替える。
4. 組間接費 ¥1,730,000
 - ⇒ A 組 (40%) ¥692,000
 - ⇒ B 組 (60%) ¥1,038,000
5. 等価係数は、1 級製品 : 2 級製品 = 12 kg : 8 kg = 1.5 : 1.0

	(個数)		(等価係数)		
1 級製品	1,500	×	1.5	=	2,250
2 級製品	2,000	×	1.0	=	2,000
¥2,754,000 / (2,250 + 2,000) = @ ¥648					
1 級製品	@ ¥648 × 2,250 = ¥1,458,000				
2 級製品	@ ¥648 × 2,000 = ¥1,296,000				

6. 工場と本社の仕訳は以下のとおりである。工場側の仕訳が解答となる。

(本社)	(借)	売	上	483,000	(貸)	売	掛	金	483,000
		工	場	320,000		売	上	原 価	320,000
(工場)	(借)	製	品	320,000	(貸)	本	社		320,000

第 3 問

- 月初仕掛品 完成品換算量 $500 \text{ 個} \times 40\% = 200 \text{ 個}$
 月末仕掛品 完成品換算量 $460 \text{ 個} \times 50\% = 230 \text{ 個}$
 当月投入量 $4,500 \text{ 個} + 230 \text{ 個} - 200 \text{ 個} = 4,530 \text{ 個}$

仕掛直接労務費

月初仕掛品	200 個	完成品	4,500 個
当月投入量	4,530 個		
		月末仕掛品	230 個

当月の実際賃率は ¥7,780,500 / 9,100 時間 = @ ¥855

また、4,530 個の標準作業時間は 4,530 個 × 2 時間 = 9,060 時間 より

¥855	45,500	
¥860		△34,400
	9,060 時間	9,100 時間

賃率差異 (@ ¥860 - @ ¥855) × 9,100 時間 = ¥45,500 (有利差異)

作業時間差異 (9,060 時間 - 9,100 時間) × @ ¥860 = △ ¥34,400 (不利差異)

第4問

1. 月初製品繰越高 ¥1,643,000 → 製品勘定の前月繰越
2. 月初仕掛品原価 ¥472,800 → 仕掛品勘定の前月繰越および指図書別原価計算表の指図書 #15
3. 材料費
直接材料費 → 指図書別原価計算表「直接材料費」
間接材料費 → 部門別振替表「間接材料費」(部門共通費は6へ)
4. 労務費
直接労務費 → 指図書別原価計算表「直接労務費」
間接労務費 → 部門別振替表「間接労務費」(部門共通費は6へ)
5. 経費
直接経費 → 指図書別原価計算表「直接経費」
間接経費 → 部門別振替表「間接経費」(部門共通費は6へ)
6. 部門共通費の配賦

部門共通費は ¥215,300 + ¥264,100 + ¥372,600 = ¥852,000

これを問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門	A補助部門	B補助部門
部門共通費	¥340,800	¥298,200	¥85,200	¥127,800

→ 部門費振替表「部門共通費配賦額」

7. 作業くず

指図書別原価計算表「作業くず評価額」、部門費振替表「作業くず評価額」

8. 製造部門への補助部門費の配賦

部門費振替表の差引計より、A補助部門費は¥236,000、B補助部門費は¥240,000
これを問題指定の割合で配賦すると以下のとおり

	第1製造部門	第2製造部門
A補助部門費	¥94,400	¥141,600
B補助部門費	¥132,000	¥108,000

→ 部門費振替表「A補助部門費」「B補助部門費」

(借) 第1製造部門費	94,400	(貸) A補助部門費	236,000
第2製造部門費	141,600		
(借) 第1製造部門費	132,000	(貸) B補助部門費	240,000
第2製造部門費	108,000		

これにより、部門費振替表の「実際発生額」が計算される。

9. 製造指図書への製造部門費の予定配賦額

配賦率は 第1製造部門 ¥19,320,000 / 23,000 時間 = @ ¥840
第2製造部門 ¥17,860,000 / 19,000 時間 = @ ¥940

これを問題指定の時間で配賦すると以下のとおり

	指図書#15	指図書#16	指図書#17	指図書#16-R1
第1製造部門費	¥352,800	¥470,400	¥411,600	¥25,200
第2製造部門費	¥357,200	¥460,600	¥404,200	¥18,800

→ 指図書別原価計算表「第1製造部門費」「第2製造部門費」

以上より、第1製造部門の予定配賦額は¥1,260,000、第2製造部門の予定配賦額は¥1,240,800
これと実際発生額との差異は

第1製造部門… ¥1,260,000 - ¥1,251,400 = ¥8,600 (有利差異)

第2製造部門… ¥1,240,800 - ¥1,250,600 = △ ¥9,800 (不利差異)

(借) 第1製造部門費	8,600	(貸) 部門費差異	8,600
(借) 部門費差異	9,800	(貸) 第2製造部門費	9,800

10. 製造指図書#15と#16の完成

問題文より、月末には補修指図書#16-R1が完成し、製造指図書#16に賦課する。

(借) 仕掛品	97,100	(貸) 仕掛品	97,100
---------	--------	---------	--------

→ 指図書別原価計算表「補修費」

作業くず評価額を控除し、差引計を計算する。

製造指図書#15と#16が完成したので、指図書別原価計算表より、
¥1,603,100 + ¥1,683,200 = ¥3,286,300 を仕掛品から製品に振り替える。

(借) 製品	3,286,300	(貸) 仕掛品	3,286,300
--------	-----------	---------	-----------

11. 製品の引き渡し

1より、指図書#14の製品原価は¥1,643,000

また、指図書別原価計算表より指図書#15の製品原価は¥1,603,100

¥1,643,000 + ¥1,603,100 = ¥3,246,100 を製品から売上原価に振り替える。

(借) 売上原価	3,246,100	(貸) 製品	3,246,100
----------	-----------	--------	-----------